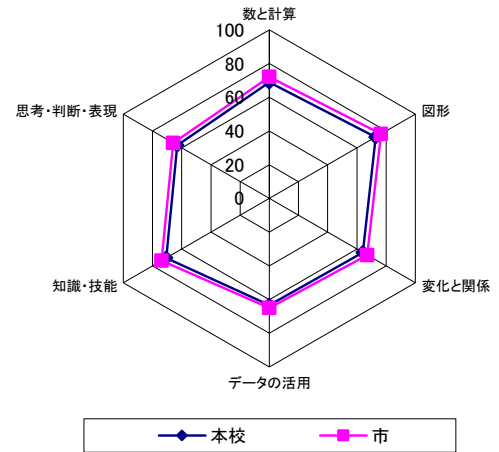


# 宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.9	72.1	74.6
	図形	72.9	76.5	76.1
	変化と関係	64.1	67.1	59.7
	データの活用	63.3	65.0	64.5
観点別	知識・技能	70.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	63.1	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は、68.9%と市の正答率を下回っている。</li> <li>○「小数の計算」における、図を使って、小数の乗法の文章問題に合った式を立式する問題では、市の正答率を3.9ポイント上回っている。</li> <li>●「小数の計算」における、小数第一位÷小数第一位＝小数第二位(商が純小数)の計算ができる問題は、市平均を7.3ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題にあった図を選ぶ問題においては、問題ごとに数直線での確認を繰り返し行ってきたことで、効果が表れていると考えられる。</li> <li>純小数同士の計算においては、小数がある問題に触れる際に既習事項の確認を行い、計算の仕方の定着に努める。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は、72.9%と市の正答率を下回っている。</li> <li>○「正多角形・合同・立体」における、三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を理解している問題では、市平均の正答率を0.1ポイント上回っている。</li> <li>●「正多角形・合同・立体」における、三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求めることができる問題では、市の正答率を9.9ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学的活動を重視した指導してきたことが効果に表れているとされる。</li> <li>様々な形の三角形の問題に触れさせる機会を多く作り、三角形の特長を理解できるようにする。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は、64.1%と市の正答率を下回っている。</li> <li>○「単位量あたりの大きさ・速さ」における、単価が異なるBセットとCセットを1つずつ買ったときの、ノート1冊あたりの値段を求める問題では、市の正答率を0.6ポイント上回っている。</li> <li>●「単位量あたりの大きさ・速さ」における、どちらのセットの方が1冊あたりの値段が安いのかを説明する問題では、市の正答率を7.3ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文やグラフの中から、基準量と比較量を的確に読み取ることができるように、問題場面をイメージし、数量の関係を捉えられるようにする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域の正答率は、63.3%と市の正答率をやや下回っている。</li> <li>○「割合・割合のグラフ」における、円グラフを正しく読み取る問題では、市の正答率を1.0ポイント上回っている。</li> <li>●「平均・データの見方」における、ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題では、市の正答率を4.6ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解き方を文章で書き表すことに苦手意識をもっている児童も多くいるため、難易度の低い問題から記述で解き方を説明する機会を増やしていく必要がある。そして、書くことに慣れさせてから問題の難易度を少しずつ上げていき、継続的な指導に取り組む。</li> </ul>